夕刊
磐城新聞
二月十九日發行
定價一ケ月金六拾五錢
（日曜祭日翌日休刊）

九々いらず珠算に就て

吉田松雄

十七

此の算ばんの出來ぬと云ふのは早く正確に出來ぬ事で筆記する時間位かゝつて計算するのでは算ばんの必要を感じないし、尋卒位の程度の學力があれば加減乘除は暗算で出來るが少しでも早くするかはどうしても算ばんでなければ用の足らぬ現今はタイガー計算器等が出來て居るので大變便利の様なものであるが、平常各人に備へ付け居るには高價なもので大變だ、十けた二十けたの計算をするには計算器があつても使用に足らぬ、十けた三十けたの法實　算をするに便利の計算器を求めるには少くとも千圓以上の金圓を必要とする

かゝる高價のものを各人が求める事は經濟が許さない、許すとしても此れ位不經濟のものはない、少し算ばんを練習すれば代價二十錢の算ばんでも自由自在に計算が出來る、此の經濟的な迅速正確に携帶にも便なる算ばんの使用も諸店にすゝめる次第である

要するに世の中の人が出來ぬと云ふのは此の除法を指して居る事である

此の除法を今日より簡便に出來る割九々いらずの除法を御使ひすることにする十分練習して下さい

從來は面倒な割算九々を覺えなければならなかつた掛算九々の外に割算九々を覺え、其の割算九々が掛算の九々と全然想像も及ばざる九々の爲め混同し易く割算の際に掛算九々を使用して計算をして居る者も一寸見受ける

割算は掛算の反對で或る數より引く可きに加へる事を用ひてあるから計算をした爲めに其の結果が益々惡

除法

法一桁の計算

25÷5=5

舊法に依ると此の計算は五二倍の四として實の桁を五に直し五進の一進（五進の一十）として一桁上つて四の所に一を加へ五を拂つて計算したのであるが新法の計算は筆記法と同じである

即ち法の桁の數と實の桁の數を見合せ（法の桁數だけ實の桁を見合せる）實の桁にある數が法に對し同數以上の場合は實の桁より二

何人も知れる事があるから次のケタ迄見合せ、二五は五の何倍かを見る、即ち五倍ある見合せたケタ五より二ケタ上（實二の直ぐ上のケタ、法實同じケタ見合せた場合も實少いから實二の有るケタの上であるから同じである）に五を置き法五と立てゝ答五を掛け合せ5×5=25を答の立てた直ぐ下の桁を十位として引く、即ち立てた五は25÷5=の答である

悼姉

晩霞生

下

悼まるゝ歌たふときに秘めおきし拙き歌を返しまゐらす（島田氏に）

○澄み透る讀經を耳に目閉づれば姉のおもはの浮きつかくれつ

○いく年を看とり仕へし女愛なし悲しみの涙拭ふいとまなく

○雪のあはく消えたれ雪の如浮かりしなど言ふも寂しき

○二たびはかへらぬ人の辿るべきよみ路にもかく雪の積るか

○關節病めば黄泉辿るに杖叶はず足袋も合はずと歎かひあらむ

○臥やりつつ永ろう命惜しからずとのらし姉を慰めかねし

○若きより寂しき姉のさがに似ずてはふりの式に花ゝ多かりき

○肉身のするとこそ云へためらひつつ棺に釘うち骨をはさみぬ　（九、一一、一六、二七日の夜）

習慣性に就て

前松佐

（四）

折角長い間かゝつて作つた良習慣が只の一、ゆるしたゝめに破壞されて了ふのである、例へば今まで冷水で洗面して來たのに今朝、寒いからと言つて温湯で洗面をさせたとすれば其の習切はよい事であつても其習慣はこのために破られるのである、大人が禁酒や禁煙をした場合でも『まあ一回だけ』と云ふので禁戒を破つたとすれば折角つゞけて來た良い習慣も後戻りして了ふのである、況んや意志の弱な子供に於ては一層それが破れ易いのである

尚ほ之が唯一つの事件に停まればいゝが、他の行爲に對しても亦甚だしく影響するものである、何故さうなるかと言ふに、今まで『斯くせよ』と命じた事に對して『今日だけはしなくてもいゝ』と言へば、子供は『これは是非さうしなくてもいゝのだ』と考へる樣になり、それが度數の重なるに隨ひ、終に親の言葉を信頼しなくなる、そこで斯うなつて來ると從來の心にゆるみを生じ、これが原因で他の方面も崩れかけるのである、尤もこの『只の一度』が子供の身体に故障でもあつて據所なき事情の爲ならば兎に角多くの場合は親自身の勝手から破るので、こんな點が甚だ宜しくないのである

以上の二法則は、ジエームスがベインの説を採用したものであるが更にサンデーの唱へてゐる習慣構成の四要素を紹介したいと思ふ

一、反復實行といふ事が大切である、如何なる習慣も唯一回の試みによつて出來るものではない、この點は既に述べた事であるが新習慣の出來あがるまでは何事によらず繼續的に反復することが肝要であつて五回や十回位の實行で成立する筈のものではない、草むらを一度ぐらゐ通ふたのでは其所に通路は開かれないけれども、しば〳〵通ふて居ると足もつれの草が次第になくなつて容易に通ることが出來るやうになる

社會の今日

2月20日

△毒婦夜嵐お絹梟首（明治五）△衆議院議員普選最初の選擧（昭和三）△帝國議會開院式△兵匪圍間島を襲撃しわが警官と猛烈な白兵戰を演す（同七）

○　西諺

何人も之を言ひ何人も之を行はゞ

花・袋

多くの人は生活に當面して始めて其の本當の價値を暴露し來る

講談　浪人長屋

(17)　日岐武志作　月草道子畫

自暴酒

『婆アさん、酒のおかはりだ』

と、どなつた

江戸吉原の安茶屋で、先刻から酒をあふつてゐた、職人ともやくざともみえる着物の上に紺の股引をはいた男

『はい、只今』

三本ほど空にして居た左手を懐へつつこみ右手だけでしきりに杯を重ねてゐた、醜男で惡相で、おまけに暗いかほをしてゐた。眼だけがぎらぎらと輝いてゐた

『へい、お待遠さま』

新らしい銚子が來ると男はつゞけさまに四五杯あふつて

『くそ、おもしろくもねえ！』

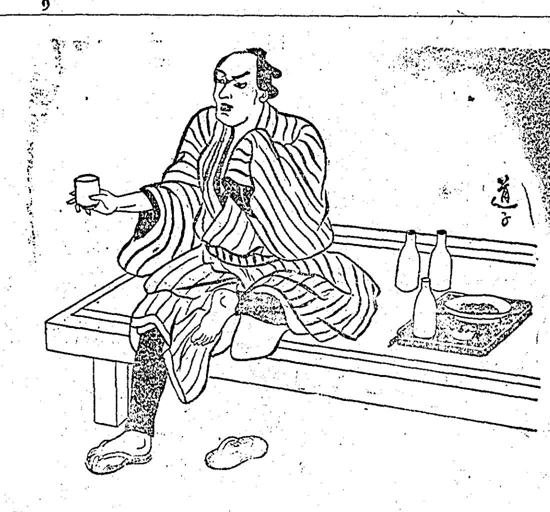
と、くちの中で、つぶやいた

『旦那、やけ酒ですネ、別ひんさんにでも、ふられたんですかい……』

婆アさんは、わらひながらいつた

『くそッ、おもしろくもねね』

返事をするかはりに、男はもう一度つぶやいた



小さな猪口で一杯づゝやるのがめんどふくさくなつたのか、前にある湯呑をとつて銚子を傾けると、そいつをぐーッとひと息に呑み干した

婆アさんは、ほそい眼を圓くした

『もう二、三本、一緒につけておくんな、面倒くさくていけねへや』

『はい〳〵、旦那は強うござんすね、けどね、あんまりのんどやどくですよ』

『どくでも藥でも、のまなくて居られるつてんですかい』

酒がもつれてきた、かほがあをじろく、目がすわりひきつゝてみえた

『ときに、婆アさん』

のぞきこむやうにして言つた

『はい、はい』

『加島樓の小花とかいふ花魁が心中したつて話しだがほんとかい』

『ほんとですともサ』

が、婆アさんは心得がほ

『男は日本橋相模屋の相總息子の甚吉、妻子もあるのに、のぼせあがつて、たうたうお定まりの勘當ときたんですよ。そこで花魁が同情しちやつてね、隅田川へどぶんとやつちやつたんですよ』

婆アさんは熱燗をもつてきた

『加島樓ぢや、型ばかりのお葬ひをだしましたよ、相模屋の方だつて勘當しち息子とはいへ、うはさをたてられちや知らぬ振りも出來ないんで、やつぱし骨なしの法事をしたつて話だが、わかいものはこまるねとんだ親なかせの罰當りさね』

『死骸は、どうしたんだい』

『死がいかね、死がいなんか大方海へ流れこんだか、お魚にでも食はれたんだらうつてなことでつい上らんだやうですよ、いやだ、いやだ』

『さうかい』

男はそれつきりだまつてしまつて、ぐいッ、ぐいッと、やけにあふりつゞけて居た

『ぢやあ婆アさんまたくるよ』

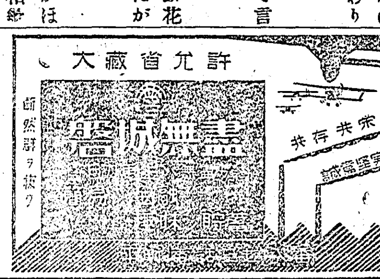
『どうもありがたうさま』

勘定をはらつて表へ出たのはそれからまもなくだつた

宵口の仲之町は、素見の客もまばらでまだ靜かだつた

加島樓のちかく來ると男はたちどまつた、そしてぎらぎらと光る目で、きッと加島樓のはうを睨んだ

死んだはずの相模屋の甚吉だつた



廣告

刀劍研磨
白鞘調製
刀劍柄巻
刀劍買入
研師　翠光齋
主　船生四郎
平町十五丁目二六大町通り

美味で評判の
イワキサロン
平町電三五二

前田醫院
院長　前田清美
植田町電話一二四

磐城名物
靈峰羊羹
小川郷驛前
平屋賣店

新築感謝
萬年筆大賣出し
舊二日より景品呈上
記念金文字御名入無料
お氣に召す迄金ペン交換
五ケ年絶對責任付
定價一圓以上
品種豊富……
角忠
佐々木商店
平紺屋町角公園前
電話二三三番

急告
今回東京某大書店の整理品新古書籍及額、椽を澤山に入荷致候、就ては來る舊正月二日より十日迄大投賣致候間何卒二度とないこの機會を逸がさず澤山と御買求の程願上候
新古書籍
額椽類
袋屋書店
平町五丁目（大工町通り）

產婆看護婦
生徒募集
平南町
平產婆看護婦學校
校長　清野キヨ子
電話三〇七番
△申込成るべく早く
△新學期開始四月八日より
△卒業兩科通して一ケ年

貴方の御家庭に
お手不足は御座いませんか
本會を御利用下さい
直に家政婦を派出します
親切叮嚀……料金は極めて低廉です
姙產婦の御家庭　お留守居番
御病人の付添　年寄やお子さんの付添
炊事や雜用
派出多忙に付會員至急募集
平町紺屋町二（電話（呼）六五二）
上原家政婦會
會主　產婆　上原通子

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋
和洋銅物
釜巨商店
磐城國平町五丁目
電話九番　九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は㊇の生命なり

夜間診療
胃腸性病專門
内科
胃腸病科
花柳病科
性病科
皮膚科
松村胃腸性病科醫院
（平町南町電一〇七番）

耳鼻咽喉科專門
醫學士　鈴木正男
平町田町（電話五八番）
藤田女學校前
齒科口腔外科
日本齒科醫學士　鈴木喜政
内郷村高坂磐炭病院前
『入院のお需めに應ず』
鈴木醫院

平町田町
高久病院
（電話五三一番）
内科
小兒科
外科
花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄

今流行のレコード
東京音頭
昭和音頭
福島音頭
萬歳音頭
スキー行進曲
希望の首途
春のエレヂー
急げ幌馬車
其他新譜レコード各種
金光堂時計店
電話一九五番
ビクター　コロムビア　特約店

吸入用酸素
純度99%
◎秤ノ取次
◎モノサシ
◎マス
◎ハカリ
度量衡
体温器
寒暖計
關内藥局
電話四〇番

月曜論壇

舊年始廻禮小見

因襲の舊殼を脫し切れぬ地方人によつて行はれつつある舊年始廻りは、經費手數の何れより觀ても極めて輕便なる年賀狀すら、一種の虛禮として往々之れが廢會社鮮魚委託販賣部調べに第二、第三校の奉安庫前に會で決定される筈止を叫ばるる場合無きに非ざる今日　少からざる經費と煩瑣なる手數とから覗て些十萬一千六百一貫、此の金か時代錯誤の感無きを得ぬ額三十七萬五千九百三十二ものがある、尤も之の慣例圓を筆頭には舊年頭の賀詞を交換するその事が目的の總てゞなく此の機會に於て寒暄の挨拶も欠る勝ちな日頃の久濶を敘し之によつて一切の不義理を清算せんとする純朴なる氣分か多分に加味されて居るので之の觀點からすれば最も意義深々人情紙よりも薄き即ち手に於て、優にいみじき醇風良俗とも稱する事が出來、殺ち輕薄なる所謂唯物史觀にのみ囚はれて之を全廢すべきで無いと云ふ議論も起じて來るが、今や曾て無き經濟苦惱に當面し何よりも深刻なる桎梏より脫出すべく盛んに自力更生を高唱されつつある折柄、之種の儀禮等は遽に全廢する事が出來ぬにせよ少くとも之を最少限度に止むるの必要があらうと思ふ、而して祖先以來の傳統は己れ一人世俗に超越し個人的に之を廢止する事は頗る困難なので之を小部落より一町村へ二貫、更に地方を打つて一丸とせば六十八圓で之に雜魚を加算する事出來せとなし漸を追ふてすると優に百五圓を突破する之を實行すれば嬉て之れにるものと觀られる伴ふ所の經費の節約を期し得る事盛しも想する難からものがある、而も人生の最大行事たる冠婚葬祭等に關し既往何百年來の舊慣古俗を脫し其間何等の支障無く而も生活改善の道程を步みつゝある今日、之が實行は極らく左迄難事業では無いと信する、卽ち町村理事者、學校、青年團、處女會、其他苟も敎化乃至修養に關する團体等が率先之が指導に當り、之種の氣風を助長する事は、時節柄また刻下の急務たるを失はない敢て新奇を衒ふでは無いが兩三百年來舊年賀の往來を見聞し愚見以て大方の淸鑒を乞はんとする所以である

長席に着き協議に入り組合理事者の議案說明が終るや

主要漁獲物丈けでも 小名濱の年收約百萬圓

水工調査の精密な統計

小名濱町磐城水產工業株式人平分會では平商、第一、々改選來る廿日頃開れる町

（第四區）區長石坂詮太郎代理島田藤吉（六區）代理關內彥太郎（十區）同鈴木要己之松（十一區）同吉田鎭政七（十七區）同吉田鎭政（十九區）同志賀兵吉

區長改選

同代理者

廿日の町會で決定

平町左記各區長及同代理者は此程任期滿了したので夫

飛塚氏榮轉

今月中發令か

縣水產業の指導開發に盡し愛知縣水產課長に榮轉する事は既報の如く地月廿日より三日間平稅務署集すべく本縣に二百五十名をなす

決勝は稅務對營林

來月三日の卓球戰

風伯大暴れ

各所に小被害多數

去勢馬檢查

郡下の日割決定

小名濱漁組 優良船員表彰

十六日小學校で擧行

關の金比羅祭典

雜沓を見越す平驛

當日の乘車賃三割引

湯本天王崎の煙草泥棒に五年

一昨十七日平區の判決

鮫川堰の負擔金 やつと折合つく

愈々近く着工か

養蠶組合

匡工と嬰兒好轉で

平小川間

乘合自動車收入增

一日市に一臺約廿五圓

四倉驛前雀屋半燒

今曉烈風中の出火

原因損害取調べ中

生花敎授

産婦人科 外科 花柳病科 専門
院長 木村寅次郎
醫學博士 内木宗八
藥劑師 玄番彌一
平町新川町十九番地
入院嘖意 病室完備
木村病院
電話一六四番

耳、鼻、咽喉科 氣管、食道科 専門
平町南町（電一〇七番）
大和田醫院
大和田部司
（自炊の便あり）

産婦人科 外科 花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
井阪醫院
平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

内臟外科 一般外科 花柳病科 入院隨意 自炊の便あり
平町田町（小心堂病院跡）（電話四七五番）
安斉外科醫院

氣管、食道科、耳鼻、咽喉科 専門
平町（元眞木辯護士跡）
増田耳鼻咽喉科醫院
電話 四八二番
（入院隨意）

池ノ坊流 生花を懇切丁寧に御敎授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館
須藤なを

舊暦 新暦 火曜
二十日 一月 壬戌
十一日 二月 先勝
十二日 二月 七曜
宿日

判定應需

東京市本鄕區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神鼎館

▲一白の人　熱心の餘り深味に落込み自他共に苦を見る▲二黑の人　我意募れば禍を誘發す賢者の言を尊重せよ▲三碧の人　苦勞も心配も功無く益煩悶を重ねるに至る▲四綠の人　外觀は平靜なるが如くなれど內部動搖の兆▲五黃の人　積極的に事を謀れば過あり萬事消極的たれ▲六白の人　事業の擴張或は新事の計畫過んで功を奏す▲七赤の人　益々佳境に入り進展發達を遂ぐるの大吉日▲八白の人　擬事を引延さず斷和を謀れば萬事吉となる▲九紫の人　十二分の發達は望み得ざるも應分の功あり

二十日

日出　六、二四
日沒　五、二七
月出前　九、二九
月沒後　——
滿潮前　八、四五
滿潮後　一〇、二五
干潮前　二、一五
干潮後　三、三〇